

読者の皆様との交流頁

この頁を読者の皆様とATACとの相互交流に使っています。

ATAC
ひと言

念ずれば、花開く

私がお付き合いしているNさんは、長年手広くやっていた日配の食品加工会社を、一寸した油断から倒産させてしまった。

50歳を過ぎてからのことである。商圈も総て失った上に借金を抱えて、さてこれからどうしようかと考えた時に、その昔祖母が自ら打って食べさせてくれた蕎麦の美味しかった事を思い出した。

開拓の時代、夕食に残した手打ちの蕎麦を、保存の為夜間外の雪の上に拵けて凍らせて置く。

翌日これを温めて食べるとひと際美味しくなっていた。

食品は、美味しい物を創れば必ず買ってくれる人が居る！。

Nさんは、明治初期、この北の大地へ入植した開拓者の三代目である。

祖父は土地の開拓記念館に最初に入植した人達として、その名前と共に顕彰されている。

その三代目としては、この地で敗退する事は出来ない。

この美味しい蕎麦を日持ちのする保存食品として商品化するには、技術の研究と共に加工設備の設置が又大変であった。資金繰りの苦勞も一入大変であったが、手造りの状態から遅々としてではあったが顧客からの確かな手応えを頼りに営業を拡げていった。

何しろ麵の加工の行程も長く、コストは普通一般の商品の数倍も掛かってしまった。付加価値を付ける為、具材やスープも自社で製品化し、一体化しての商品開発を行う。

下請けの苦勞も数年。徐々に自社ブランドを世に問う。

やがて、これらの苦勞が報われるときが来た。

食品の特殊な加工技術、量産・管理技術の他、商品化のノウハウ等が会社の将来を創り出す財産となった。この加工技術が新しい原料素材を得て、今や新たな展開を見せようとしている。

顧客も近圏から広く全国ネットの店に跨り、新商品の開発のため訪れるバイヤーの対応に忙しい。

あれからざっと二十年、漸く将来の夢や構想が展望できる峠にさしかかった感である。百年以上前の生活の知恵であったのであろう、一つの技術が会社を再起再生させた。文字どおりパイオニアであった祖父母の苦勞を偲びながら、Nさんは祖先と神仏の加護を実感、感謝する日々である。(野町記)



企業
PR
コラム

球状シリコンによる

高効率太陽電池を目指して

代表取締役社長 室園 幹夫

地球温暖化防止京都会議 (COP3) を契機とした地球温暖化対策の世界的な広がり、そして高騰する石油価格など我々を取巻くエネルギー・環境問題は、もはや我々人類が避けることの出来ない最重要課題であることは既に周知のことです。

そのような中で、新エネルギー特に太陽電池に対する社会の期待は大きく、その市場は驚くべき勢いで急拡大を続けております。

弊社は平成13年5月の創業以来、このような社会ニーズに応えるべく、球状シリコン太陽電池の事業化開発を進めてまいりました。そして、今春5月よりパイロットプラントによる量産試作を開始するとともに、9月末を目処に量産プラント (年産12MW) を導入し、年明けと同時に同ラインをフル稼働したいと考えております。

弊社の球状シリコン太陽電池は

- ① 集光構造であるため、従来の商品に比べ高価なシリコンの使用量が1/5以下で済む
- ② 結晶シリコンでありながら、軽量でフレキシブル性がある
- ③ 真空装置を用いない、ローコストプロセスである



等の優れた特徴を持っております。

また、弊社は事業拡大をより着実に進めるため、フジブレーム株式会社と販売提携を、カナダのフォトワット社と技術提携するとともに、「一人一人の熱い想いと、全員の協業が事をなす」をモットーに全社員一丸となって事業化開発に取り組んでおります。



▲セル外観



▲AR形成装置

株式会社クリーンベンチャー21

住 所：〒601-812 京都市南区上鳥羽大物町35

TEL: 075-692-3211

FAX: 075-671-2101

URL: <http://www.cv21.co.jp>

ATACニュース第18号に関するご意見、および今後のご要望をどしどしATAC事務局までご連絡ください。



ATAC事務局 担当/渡邊・小山

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4
(財)大阪科学技術センター 技術・情報振興部
TEL06-6443-5323 FAX06-6443-5319
e-mail: atac@ostec.or.jp

URL <http://www.atac.ne.jp>

ATACホームページもご覧下さい